

## 羽ばたけ! TUT2021 後期 報告書概要

1 系 B3 年

参加プログラム名	Online Australian Experience: English & Activities
研修期間	2022年 2月 28 日 ~ 3月 11 日
研修先機関名・所在国	Southern Cross University
研修の概要 (研修テーマ、課題、目標・目的や主な研修活動内容、研修で達成したこと等を簡潔にまとめて書いて下さい)	<p>本研修では、オーストラリアの行事、食事、環境、文化などオーストラリアのことを広く学び、日本との違いについて考えること、英語でのコミュニケーションを通じて英会話力を向上させることがテーマとされていた。1日3時間の授業に10日間取り組んだ。私は「自分の英語力を知ること」、「英語学習のモチベーションを上げること」、「英語に慣れること」という3つを目標として本研修に参加した。研修では、ネイティブスピーカーと話す機会であったり、授業内で発言する機会が設けられているため、必然的に英語を話さなければならない環境であり、10日間を通して「英語で話すこと=日常」という考え方にすることができた。また、オーストラリアの多文化社会における生き方、オーストラリアの様々なお祭りや行事、食文化について学ぶことができ、オーストラリアについて様々な知識を増やすこともできた。学んだ内容から3人グループでのプレゼンテーションも行われるため、英語をアウトプットする機会も設けられている。英語力を向上させるためには、「積極的に、自分の意見は正しいか考える前とにかく言う」ということを意識しておくことが重要だと考える。</p>
活動写真1枚 (修了証の写真でも可)	

# 羽ばたけ! TUT2021 報告書

1 系 B3 年

## 研修内容

### 含める内容

#### ① 参加の目的や動機

私は今回の研修に2つの動機があり参加した。

1つ目は、海外の人と関わる経験を増やすことである。

夏に初めて羽ばたけ研修に参加させていただき、自分の意見が思うように言えないという悔しい経験をした。そのため、夏の羽ばたけ研修以降、英会話の練習を行ったり、積極的に英語に触れる機会を作ってきた。しかし、普段海外の方と話すという機会がないため、自分の実力がどのぐらい向上しているのか把握できていない。そのため、この羽ばたけ研修に参加することで自分の実力を再確認し、今後の英語のモチベーションにつなげたいと考えた。

2つ目は、上手く英語を伝える練習をすることである。

今回は初めてオンライン留学という経験をしたため、話すことで精一杯であった。そのため、今回はいかにうまく伝え会話を弾ませるかというところを意識したいと考えた。また、英語ということ意識すると中々日本語で話すときのようにすらすらと言葉が出てこないため、英語をたくさん話すことで友達と会話するようなスピードで英語で話せるような訓練をしたいと考えた。

#### ② 研修内容

##### (1) 語学研修

##### (2) バーチャルツアー

##### (3) オンラインホームステイ

##### (4) ネイティブスピーカーとの会話

##### ・語学研修

語学研修では、1クラス20人程度で英語の授業のような感じであった。ブレイクアウトルームはあまり使用せず、先生から英語の文法、単語、発音などのレクチャーを受け、練習問題等で実践するというものが基本的な流れであった。そのため、話す機会はあまり無く、練習問題の答え合わせの際に指名されたら話すという感じであった。

また、最終日には学んだことをテーマとして3人グループでプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションでは、スライド作成、原稿作成、グループ間での話し合いが全て英語で行われるため、英語を話す良い機会となり、アウトプットすることができた。

##### ・バーチャルツアー

バーチャルツアーでは、コアラホスピタル、サザンクロス大学、ウルル、Australia day が取り上げられた。それぞれHPに掲載されている動画を見たり、Google Earth のようなものでバーチャル空間を移動する体験をした。そして、その後ブレイクアウトルームで感想を話し合ったり、先生による補足説明、オーストラリアに住んでいる先生にバーチャルツアーの内容について質問したりした。自分では調べないような内容に触れることができたため、オーストラリアのことを多く知る良い機会であった。

#### ・オンラインホームステイ

ホームステイ先の人 1 人に対して 10 人ほどの生徒という割合でブレイクアウトルームが作成され、現地の人の家のバーチャルツアーや会話が行われた。現地の人もゆっくり話してくれるし、親しみやすいためホームステイに関心を持つことができた。また、オーストラリアの街並みについても知ることができた。

#### ・ネイティブスピーカーとの会話

オーストラリアのボランティアの方と英会話練習を目的として、セッションが行われた。このセッションでは「祭りや行事」がテーマとされ、日本の行事を紹介し、オーストラリアの行事を紹介してもらい、質問したり、日本との違いについて話し合った。ボランティアの方は日本が好きなお方が多いため、話の内容が通じやすく楽しめた。

#### ③ 研修の成果、研修で獲得したもの、当初設定した行動目標の達成度、問題点

今回の研修では、時制や連語を上手く用いながら自分の意見が言えたと感じる。前回は、「この文法なんだっけ」と考えている間に言う機会を逃してしまったり、結局単語をつなげてなんとか伝えることしかできなかったが、今回は Yes や No の後にさらに自分の意見を言えるようになった。また、自分の英語を話すスピードも上がっている気がした。これは、夏以降行ってきた英会話練習の効果であると考え、英語はアウトプットの量が多くなるほど上達するのかなと感じた。そのため、「自分の英語力を知ること」という目標は今回海外の人と触れたことで達成でき、「文で話すことを意識する」という行動目標も大いに達成できたと感じる。

また、何か意見を言う際に他の人が同じ空間にいても、自分の意見に自信がなくても発言する際に緊張しなくなり、恐れがなくなった。以前は、「確実に合っている自信があるものだけを言おう」という考え方があったため、発言する際にも「本当に合っているだろうか」という考えで頭がいっぱいになりとても緊張してしまっていた。しかし、今回たくさん発言してみて間違えても誰も何も言わないし、何も思っていないということを学んだ。先生も「たくさん発言する＝やる気がある」とみなしてくれるし、先生の口癖が「Don't be shy」であるため、意見が言いやすかった。そのため、英語に慣れることができ、正確さという観点では完璧に伝えられるまでにはまだまだであると感じた。

そして、日本人学生と英語で話す時には何も感じなかったが、先生やネイティブスピーカーの方と話す際、自分のリスニング力の無さを痛感した。ゆっくり話してくれているものの、音がつながっていたり、ネイティブ特有の発音が上手く聞き取れないことがあった。これは、新たな課題であり、「ネイティブの音が聞こえるようになること」が今後の英語学習の目標の 1 つとなった。

#### ④ 今後の目標、課題、当初設定した「研修後に実践する行動目標」の見直し

まず、事後目標の 1 つとして掲げた「研修の感覚を忘れずに日常的に英語に触れる」という目標について、アウトプットの量が英語力向上につながるということに気が付いたため、今後も英会話練習を続けていこうと考える。そして、英会話練習の中で語彙を増やしどのような分野の話題であっても会話できるようにしていきたい。また、音読を積極的に行い、流暢で良い発音の英語が話せるようにしていきたい。

また、今回の研修における最大の課題はリスニングである。海外に行ったら聞き取れないと困難になるため、この課題は確実に克服しなければならない。そのため、ネイティブスピーカーが話している TOEIC のリスニングの練習を行い、ネイティブスピーカーの対策をしたり、その国特有の発音の仕方、スラングなどを自ら学び、次に海外に触れる機会までに力を付けておきたい。

⑤ その他感想など

今回の研修は、オンライン留学 2 回目ということもあり、心に少し余裕を持って取り組むことができました。そのため、自分のことを客観視できる良いきっかけになったり、「海外に触れる」という自分の夢にまた 1 歩近づいたということを実感できました。自分 1 人では気が付けないことに気づけるのがこの研修の最大の利点であり、この研修では必ず得られるものがあるということも分かりました。自分にできることが分かれば自信につながるし、できないことが見つければ今後の英語学習のモチベーションにもつながります。私の場合、「夏より英語上達してるかも」という良い気づきと「ネイティブスピーカーと言ってること半分ぐらいしか理解できない」というモチベーションにつながる気づきがありました。これらの気づきを基にこれからも英語に触れていきたいと思います。

羽ばたけ研修に参加するか悩んでいて、この文章を読んでくれている人がいたら、絶対に参加することをお勧めします。海外に対する見方が変わったり、英語が身近に感じるようになります。

最後に、夏に引き続きこのようなプログラムを開催していただき、私の挑戦を採択していただき本当にありがとうございました。今回もまた、自分の新たな可能性を見つける事ができました。